



第13回 学院祭 (平成24年10月7・8日) テーマ「思い出 is プライスレス」

学 院 報

学校法人高知学園
高知リハビリテーション学院

学院報第17号

学校法人 高知学園
高知リハビリテーション学院

平成25年1月10日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102
高知県土佐市高岡町乙1139-3
Tel 088-850-2311
Fax 088-850-2323
<http://www.kochi-reha.ac.jp/>
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション

学院への抱負⑥

学院長 大倉 三洋

保護者の皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。また平素は学院の教育・運営に関しまして、ご理解、ご協力を賜りまことに有り難うございます。お陰様で、この学院報も第十七号の発刊を迎えることになりました。

平成二十四年度は理学療法学科四十四期生(六十九名)、作業療法学科二十期生(三十九名)、言語療法学科十六期生(三十八名)を新たに迎え学生総数五百三十九名でスタートいたしました。そして四月のスポーツ大会、八月のよさこい祭り、十月の学院祭も無事終わりこれらの行事を通して良き友人や先輩との出会い、またクラス・学科あるいは学院生としての絆をより深めることができたように思います。

また四年次生は四月あるいは五月から始まりました長期臨床実習も無事終わり、先日(十一月二十八・二十九・三十日)四年間の集大成でも有ります卒業研究発表会を行いました。

卒業研究が正式科目として卒業論文(現在の卒業研究)が行われるようになったのは昭和五十年に修業年限を三年制度から四年制度に変更した時からで、今年で理学療法学科三十五回、作業療法学科十七回、言語療法学科十三回の卒業研究発表会を行っております。最近卒業研究を課さない大学が増えてきている中、卒業研究が続いていることはすばらしいことであり、卒業研究は本学院での四年間の教育の集大成の科目です。学生には卒

業研究論文を作成する事により研究テーマの設定、研究方法、統計処理、結果・考察のまとめ方、また発表の仕方など色々なことを学んでもらったと思っております。本学院の卒業研究は、人間総合科学大学を併修している学生にとっては本学院と人間総合科学大学の両方の卒業研究ということになります。今年人間総合科学大学の方から近藤先生が発表会にご参加され、熱心に学生の発表を聞いていただき、総合コメントでは研究内容、ポスターの作成、発表態度が素晴らしいという、お褒めの言葉をいただきました。私も、第二回の卒業研究から昨年まで卒業研究の指導をしてまいりましたが、指導では研究テーマを見つけさせるまでが大変で学生との二人三脚で論文を仕上げるというより、強引に引っ張ってゴールに倒れ込むというのが卒業研究指導の実感で、この季節になると卒業論文とともに、その当時の卒業生の顔が思い浮んで参ります。

また、平成二十三年度より取り組んでおります高知リハビリテーション学院の教育環境の拡充・整備計画の状況につきまして、現在一階に合同教室、パソコン実習室、ゼミ室、二階を図書館とすることで実施計画を進めているところで、平成二十五年度中の完成を予定しております。今後更に運動場の確保など教育環境の拡充・整備を中心に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

学院祭を終えて

学院祭実行委員長

作業療法学科 三年 大西 祥平

今年の学院祭は、二日間にわたり、各クラスの出店や外部の方も自由参加できるビンゴ大会、学生が企画したクラス自慢やカラオケ大会など、多くの催しを運営しました。本番が近くなるにつれて準備に追われ、学院全体が慌ただしくなりました。成功させることにしての不安もありました。しかし、実行委員会や各イベント係を中心に学生が一丸となって学院祭に挑み、先生方のサポートのおかげで何とか成功させる事が出来ました。当日は、地域の方々や先輩方に立ち寄って頂き大成功でした。また、大きなハプニングもなく、例年以上に盛り上がった学院祭になったのではないかと思います。企画運営をしていく中で、自分一人の力だけでなく、学生、実行委員、外部の方々や先生方のおかげで無事成功させることが出来たと思っております。本当に有り難うございました。



言語療法学科 三年

宮本 裕也

私は今回の学院祭が今までで最も達成感を感じる事ができました。一年の頃は、どのような事をするのか分からず、クラスで協力してできませんでした。

二年生の時は、夏休みからクラス全体で準備し取り組むことができ、クラス自慢では二位になる事が出来て良い思い出になりました。

学院祭最後の年となった今年は、学

作業療法学科 三年

岡田 丈

今年の学院祭は三年生ということもあり、最後の学祭なので、クラスのみんなが一致団結して仮装やクラス自慢に力を入れました。クラス自慢は台本を考える段階から始めましたが、学業が忙しくなかなか思うように進みませんでした。しかし、クラス全員で空いた時間を利用して協力することにより

理学療法学科 三年

左京 宗顕

私は、今回の学院祭は初めて学祭委員として参加しました。昨年までの学院祭とは違って、各係の全体を仕切るという大きな仕事があり、初めての経験で何も分からず戸惑っていた私は、学祭委員の方を始め、たくさんの方々

年も上がり、夏休みも学業に追われて学院祭の準備の時間がとれませんでした。そんな忙しい中でも、最後の年もなんとか学院祭を成功させたいという気持ちで、限られた時間の準備をしました。結果としては、二次を上回ることは出来ませんでしたが、今までのように時間がない分、クラス全体が一致団結して取り組む事ができました。この団結力でいろいろな事に挑戦し、乗り越えていきたいと思っています。

大成功しました。クラスの出店は、調理係、会計係、呼び込み係に分かれ協力することにより、完売することができました。今回の学院祭では、クラスの協力だけでなく、学院祭実行委員の人や、先生方の協力があったからこそ成功だと思えます。最後の学院祭と思うと悲しいですが、良い思い出が出来ました。

いかと思います。学院祭までは、辛いことがたくさんありましたが学院祭当日には、楽しむことができました。学院祭を終えた時の達成感は今までに味わったことのないものでした。学院生みんなで協力して、ひとつのことに取り組む素晴らしい時間にできたのではないかと思います。昨年までも楽しい学院祭でしたが、今年の学院祭は私にとっても良い思い出になりました。



よさこい祭り

作業療法学科 一年 西村 愛純



私は中学三年生の時からよさこい祭りに参加していました。学校行事として参加するのは初めてで、皆と一緒に踊れることが嬉しくて、よさこいの練習が始まるのをまだかまだかとワクワクして待っていました。練習は暑く、踊りが苦手な学生も居て、教えるのに最初は苦戦しました。自分も教えるのが上手なわけではなかったので大変でした。けれど、踊りに慣れてくると、皆が自主的に練習したり、積極的に「教えて!」と来てくれたりして、徐々に楽しいものになっていきました。本番は、初日から空がどんよりして雨が降ったりしましたが、充実した二日間だったと思います。皆がはじけるような笑顔で踊っているのを見た時、とても嬉しかったです。「教えてくれて有り難う」と言われた時、よさこい委員で良かったと思います。

私は今回のよさこい祭りを通して、教えることの難しさと仲間の大切さを学びました。よさこい祭りを通して出来た絆を胸に夢に向かって勉強に励みたいと思います。

大綱祭り

理学療法学科 一年 中川 結貴



八月十八日、土佐市で行われた大綱祭りに「よさこい踊り」を踊るために参加しました。本祭から一週間ほどたち、またみんなと楽しく踊れることを嬉しく思いました。初めて参加した大綱祭りは、多くの人で賑わい、普段の町並みからは想像できないほどでした。たくさんのお客様や踊り子のチームが参加し、とても楽しむことが出来ました。たくさんの方々が参加していたので、色々な人と関わる事ができ、とても良い機会になったと思います。来年度の大綱祭りは今年以上にたくさんの方で賑わい、来年入学してくる新一年生にも是非参加してもらいたいと思います。とても良い経験になりました。

クラブ紹介

【フットサル部】

理学療法学科 二年 明坂健太郎



フットサル部は、部員は約十五名で毎週月曜日十八時から二時間程度、講堂で練習を行っています。基本的にゲーム形式で練習をしています。フットサルやサッカー未経験者もたくさん来てくれていて、経験者・未経験者に関わらず楽しく練習をしています。現在、高知県フットサルリーグに参加していて、今年から三リーグでのスタートを切りました。リーグ戦は先日終了して、全勝という成績を収めました。二部リーグとの入れ替え戦を経て二部に昇格することを目標に、二年生を中心に頑張っています。しかし、来年度になると三年生が臨床実習となり、なかなか人数が集まらなくなるかもしれません。フットサルに興味のある方は是非一度だけでも練習に来てもらえると嬉しいです。これからも応援を宜しくお願いします。

卒業研究発表会

理学療法学科 補導主任

栗山 裕司

平成二十四年十一月二十八日
(水)・二十九日(木)・三十日(金)
の三日間の日程で、三学科合同の卒業研究発表会が開催され、理学療法学科は第四十二期生五十九名が発表を行いました。このうち、二十五名は人間総合科学大学併修者で、大学

の卒業研究を兼ねた形での発表となりました。卒業研究は、学院における四年間の学業の集大成であります。これまで学んできた知識を応用して、研究テーマの発見、文献収集、研究計画書の作成、データ収集・分析、論文作成、発表という一連の研究過程の中で、多くのことを学び経験したことと思います。これらの学習経験や卒業研究をやり遂げた達成

感は、これからの臨床活動における探求心や問題解決能力、熱意や日々の努力へとつながるものと確信しております。この経験を活かし、今後四十二期生が大いに活躍されることを期待しています。最後に、卒業研究作成にご協力、ご指導、ご援助戴きました皆様方に改めて深く感謝致します。

作業療法学科 補導主任

篠田 かおり

平成二十四年度の卒業論文発表会において、作業療法学科十七期生が発表を行いました。卒業研究の作成にあたりご指導・ご協力いただきました皆様方に感謝いたしております。

二年次の基礎セミナーから文献収集を始め、三年次の応用セミナーで

は、個人の研究テーマを決定しました。テーマは高齢者と作業遂行、作業遂行と評価・介入方法、洗体や更衣などの動作分析など様々でした。

四年次の四月までに論文完成の予定でしたが、発表会間近になって、急ぎ足で取り組んでいました。収集したデータを客観的に分析し、論文と照らし合わせながら考察すること、伝わりやすい文章を書くことの難しさや、計画的に取り組むことの大切

さを学んだのではないかと思います。論文が完成した際には、努力した分だけの達成感を感じることができたのではないのでしょうか。今後、臨床の現場で感じたことを、客観的に証明し、作業療法の発展に寄与できる作業療法士に成長することを期待しています。

言語療法学科 補導主任

塩見 将志

十一月二十八・三十日に、平成二十四年度卒業研究発表会が開催されました。今年度で三回目の担当学年の発表会となりますが、卒業研究発表会の度に感じるの、学生たちは良く頑張っている、ということなのです。研究活動では、仮説を立て、その仮

説を検証するための方法を立案し実施、実施後には結果を出し、考察することが要求されます。そして、学生たちは、この要求に良くこたえてくれていると思います。特に担任をしている学年では、一年生の時にグループ研究の指導を行っていることから、四年間での成長をみる事が出来ました。卒業後は、臨床家として病院などに勤務することになりま

す。私は、臨床で求められるものと研究で求められるものは、同じものだと考えています。卒業後もぜひ研究活動を続け、より良い臨床家になっていてもらいたいと思います。卒業生の名前を学会や学術誌でみることを楽しみにしています。



))) 教 員 紹 介 (((



言語療法学科
石川 裕治

本学院に言語療法学科開設と同時に就職して十六年目、また、学科長を務めて十二年目となりました。いよいよ高知県民となりつつあります。高知にやって来た時、〇歳児と年中であった二人の子供



作業療法学科
川上 佳久

私は平成十七年から本学院に転職しました。

担当科目は二年次の身体障害評価学・手技、三年次の中枢神経障害(後期のみ)を受け持っています。授業は学生には対象者のイメージが少な



理学療法学科
宮崎登美子

本学院に就職させて頂き、早五年が過ぎようとしています。その間、今年三月に卒業いたしました四十一期生の副主任をさせて頂きました。在学中は心配が尽きませんでした。卒業後、理学療法士と

も、高一と大学二年(現学科二年次生と同級生)となり、当時、私よりも年上ばかりであった保護者の方々が、今では年下の保護者も多くなりつつあり、年を取ってきたことに気付く今日この頃です。今では、学院での仕事に加え、全国の言語聴覚士の職能団体である一般社団法人日本言語聴覚士協会の常任理事や、高

知県言語聴覚士会の副会長などの役割を担い、養成校における卒前教育と合わせて、臨床家に対する卒後教育について関わる機会が多く、悩む日々を過ごしています。これからも、社会の期待に応えることのできる言語聴覚士の養成に努力しますので、多くの方のご協力をお願いします。

ために、自分の経験談も含めながら、少しでもリアルなテイのある、分り易い授業を心がけて行っています。僕自身決して勉強が好きで学生ではなかったですが、今の教科書やDVDを見ると、僕が学生の時よりも障がいがいイメージし易いと感じます。逆に言いますと、それだけリハに対する理解が進み、市

民権を得、有名になったと考えます。事実、良い意味でも悪い意味でも養成校が乱立しています。

授業を通して「人や仲間を大切にすること」をいつも言っています。思いやりの気持ちの大切さです。このことは全ての事に繋がると信じております。

皆様が興味を持って学習に専念できるよう努力して参りたいと思っています。成長する可能性は無限にある事、願ひ続ければ道は必ずひらける事を胸に、学生の皆様と共に学び続けて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

して様々な臨床現場で活躍されており、患者さん向き合い、悩みながらも理学療法に取り組んでいる姿に頼もしさを感じています。本年度は、一年生の基礎科目、二年生副主任と国家試験に関わらせて頂いています。一、二年生での知識の積み重ねは、専門を学習する上において、とても重要になってきます。学生の



学生部長 清岡 学

平成二十四年七月一日より入職いたしました清岡学でございます。私は、昭和五十四年四月一日、高知リハビリテーション学院の第十二期生として入学いたしました。大倉三洋、現学院長が高知リハビリテーション学院に入職し、補導主任として最初に担当していただいた学期生です。私の学院での四年間は、大倉先生をはじめ、多くの先生方に多大なる迷惑をかけ、大いに叱られながら過ごした学生生活であったと記憶しております。昭和五十八年三月に卒業後、兵庫県信原病院に三年間勤務し、昭和六十一年から医療法人野並会高知病院の理学療法士として勤務。その後、平成二十一年五月より同法人の介護老人保健施設あいおい副施設長として施設管理業務に携わってまいりました。今回、二十九年の臨床から離れ、母校での学校教育に足を踏み入れることとなりました。入職後五カ月が経ちましたが八月の「よさこい」や十月の「学院祭」などの行事を経験し、学校の雰囲気はつかめました。担当の授業も試行錯誤しながら何とか提供できていると思います。しかし学院の細かいシステムや決まりごとがまだまだ取得できていないこと、そして何より学生部長という役職の重さに戸惑っている自分がここにいることも事実です。とは言うものの、それなりの覚悟は持つて高知リハビリテーション学院に來たつもりであります。「学生本位」という学院の基本方針をしっかりと肝に銘じて務めてまいるので、何卒よろしくお願い申し上げます。私は一見すると温和で優しいイメージを持っていますが、実は頑固でハシカい面も持っております。前職場では「清岡は火をふいて怒る」と言われておりました。学生に対しては時に叱り、時に褒めながら「やる気を持たせるべく動機づけ」ができる対応を。職員に対しては状況に応じて是非で対応させていただきます。「時には強く、厳しく」当たることもあろうかとは思いますがご勘弁願ひ、お付き合ひいただければ幸いです。誠に簡単ですが自己紹介とさせていただきます。

のすたるじゅく★ウニチュク

—— ケーシー ——

クイズです。「Tシャツ」「Yシャツ」「Gパン」「KC白衣」のうち、英語として正しいのはどれでしょう？正解は「Tシャツ」で、T字型のシャツだからです。「Yシャツ」は、白いシャツのホワイトシャツが訛ってワイシャツです。最近ではカッターシャツと呼ばれています。最近「カッター」はもとも『ミズノ』の商品名です。ところで、「Yシャツ」の裾が丸くなっているのは、トイレに腰掛けたときに前・後を隠すためです。「Gパン」は、旧い言い方ですが、これはもちろんジーンズ・パンツを略しての当て字です。さて「KC白衣」ですが、この白衣は臨床実習でのユニホームでもありますから、ご存知でしょう。病院では一般的になっているケーシー白衣を、このように書くようになったのはむしろ最近です。ケーシーと言って思い当たる方は、昭和二十年代生まれの人。一九六二年に日本でも放送されたアメリカTVドラマ『ベン・ケーシー』の中での脳外科医Dr. Ben Casey が着ていたのがこの型の白衣。当時はほとんどが長い裾の理科の先生が着るような白衣だったために、機能的で画期的に映ったものです。このため、これがあつという間に日本で広まりました。このケーシー、昔懐かしい漫談家のケーシー高峰さんの名前の由来でもあり舞台衣装でもあります。そして、ケーシー高峰さんは医者の家系に育ち医学部中退ですから、ドイツ語の医学語を漫談のネタに



しているのです。

白衣の起源はナイチンゲールにあるとされませんが、その頃の病院は病人の収容所のようなところで汚く不潔でした。ナイチンゲールが高名になったのはこの環境を変えたからであり、ナイチンゲール自身は白衣ではなく、修道衣に白いエプロンをしていただけでした。その後、「白」が清潔のシンボルであることから、白衣が医療者のユニホームになりました。日本では、明治三十年代に白衣が移入されました。ただし、白が清潔というのは見掛けだけであって、例えば、一週間も取り替えないナースキャップはバイ菌の巣であることがわかって、いまは冠られています。

ところで、床屋（散髪屋）がケーシー白衣を着ているのは、職業ルーツが同じだからです。ヨーロッパでは中世までは、カミソリを使える床屋が外科手術をし、皮膚をカミソリで切って血を吸い出す瀉血（しゃけつ）療法をしていて、床屋が外科医の祖先だからです。だから散髪屋のマークは、赤が動脈を、青が静脈を、白は包帯を表す「ねじり棒」なのです。

さてここみると、ケーシー白衣も日本では半世紀の間、デザインを変えず愛用されていることになりました。しかし、白衣は威圧的で権威の象徴と見えることから、病院外来では血圧が上がる「白衣症候群」の根源にもなれて、いまは、カラー（色物）で、Vネック（スクラブ）型やプレザー型の物に変わりました。特に、小児病院などでは普段着やジャージで診療のところも多くなっています。また本家のアメリカでは、ケーシー白衣はほとんど見かけず、柄物なども多いそうです。日本の医療と教育は保守的といわれますが、その所以がこんなところにも表れているかもしれません。（山本双一）

就職合同説明会の報告について

就職指導委員長

平賀 康嗣

十月二十七日（土）に実施した平成二十四年度就職合同説明会は、平成二十年二十度二十六施設、平成二十一年度三十二施設、平成二十二年四十一施設、平成二十三年四十八施設、そして今年度が五十七施設と過去最多となっております。今年も昨年度に引き続き講堂だけでは入りきれないため食堂も使用して実施した。

就職合同説明会に参加した施設側の担当者の中には、「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士すべて募集しているのは是非来て欲しい」と訴える施設も依然として存在するが、平成二十二年度から「何が何でも作業療法学科の学生に就職していただきたい」と切実に訴える声が多くなってきた。就職氷河期のニュースが多く流れる現況を考えれば正に別世界と言える。就職合同説明会に参加した学生は、理学療法学科五十九名、作業療法学科二十名、言語療学科二十一名であり、積極的に話を聞きに行こうとする学生からは「話を聞きに来る学生



就職説明会

知つとせ

《それから第16回の巻》

リハビリテーションを学ぶ

高知リハビリテーション学院には、理学療法学科、作業療法学科、言語療法学科があります。このうち言語療法は言語聴覚療法の旧い言い方ですが、この三療法は医学的リハビリテーションの三本柱とされています。「リハビリテーション」には医学的な分野と社会的な分野がありますが、本学院を卒業して国家試験合格で得られる免許は医療のなかで通用する資格となります。したがって、本学院での学びは医療についてであり、特に、医学に関する授業科目が主になります。

医学は、介護や福祉とは一線を隔して、科学です。科学では原理や理論が重要で、治療（療法）にも思考と考察が求められます。そして、ボランティアではありませんから治療の結果も求められます。学生として手技（テクニック）だけを学んで、免許取得後に、どのような傷病でも、どの患者にも、同じ治療（手技）を使う、というわけにはいきません。それぞれの患者や、傷病部分に、選択して工夫して変化させて応用して治療をしなければなりません。そのためには、在学中の四年間で、臨床医学を広く学んだうえで、専門領域での知識を深め技術を身につけねばならないのです。そして、その学習方法として、暗記力ではなく、理解力と応用力を高めるように変えることが必要になります。

（教務部 山本）

図書館だより

依光 朋子

大学の図書館には、書籍や論文を探し出す機能が備わっています。本学院でも、医学中央雑誌Web、メディカルオンライン、CiNiiなど、数種類の検索システムが利用できます。検索の結果、図書館にその資料がない場合には、他の図書館から資料を取り寄せる相互貸借サービスを利用します。このサービスによって、あらゆる資料を簡単、スピーディーに揃えることができます。

本学院には全国の図書館から年間1,300件を超える申込があります。この数字は、加盟する全国1,580の図書館の中で233位に相当します。高知県下でいうと高知大学図書館医学部分館（37位）、高知大学図書館中央館（226位）に次いで第3位です。全国のリハビリテーション専門学校（約180校）の中で比較すると第1位です。というよりも検索システムが利用できたり、相互貸借サービスが行われたりしている専門学校は日本の中で高知リハビリテーション学院だけです。また、これらのサービスは、インターネットを通じて学外からも利用できるようになっています。これからも図書館は、より充実した学院生活を応援していきます。

保健室だより

上村 孝子

11月に入り、寒さが本格化して、風が冷たく感じられるようになってきました。これからの季節は、風邪やインフルエンザが流行しやすい時期です。現在、保健室でも、風邪症状で訪れる学生さんが、増えています。外出から帰ってきた時や食事前は、うがいと手洗いを実施し、体調が悪い時は早めに休養をとるなど体調の自己管理に努めてください。また、咳や喉の痛み、発熱などの風邪症状があるときはマスクを着用し、早めに医療機関に受診するように心がけてください。今年は咳、鼻水、喉の痛みと高熱が続く【A型のインフルエンザ】が流行るといわれています。



◆◆インフルエンザの特徴◆◆

- 地域内でのインフルエンザの流行
- 急激な発症 ※前兆としての鼻水や咳、くしゃみ等がなく、急な発熱
- 38℃以上の発熱と悪寒

さらに次のような症状があれば、インフルエンザを疑いましょう。

- 関節と筋肉痛
- 倦怠感と疲労感
- 頭痛 ※関節の痛みはかなり特徴的にでます。また、次の風邪症状も同時か、または少し遅れて出てきます。
- 咳・鼻汁・くしゃみ
- 喉の炎症 ※自分で毎朝、健康観察を心掛けましょう。

◆◆インフルエンザ予防接種について◆◆

予防接種を受けると、かかりにくく、かかっても軽くすんだります。接種後、効果が現れるまでには、約2週間程かかり、約5ヵ月間続きます。流行が始まる前の遅くとも12月中旬までに接種するとよいです。寒気等、体調不良の時等おかしいな？と感じたら、保健室に検温を受けに来てください。



全国で活躍する卒業生シリーズ⑰

「あなたの師は傍にいる」(雑感)

石岡循環器科脳神経外科病院

理学療法学科十二期生

黒澤 保壽



学生は先生と教科書に引つ張られて勉強する。自学自習という言葉こそあるが、独力で知識を得ることはきつと少ない。学校教育は自力では飛び上がることはできない、いわばグライダー人間のようなものを造ってきた。従順に引つ張られるときだけ飛び立つ学生が尊重され、エンジンを持ち勝手に飛び回るヤツは迷惑なだけであって決して優秀とは評価されない。しかし、グライダーとしては優秀である学生が、いざ臨床という世間に飛び立とうとすると翔べない自分に愕然とする。牽引してくれるひとがないのである。そこへ一つひとつ丁寧に指導してくれる牽引者が現れたら、学生にとっては打って付けである。いい指導者だと票を投じる。指導者側も勝手に翔びまわる迷惑な飛行機を避けようとし、翔べない学生は「ゆとり教育の犠牲者だ」と自己弁護する。かつて山本双一先生に受動的教授法と能動的教授法というのを教えられたのを思い出す。その昔、師匠は愛弟子にでさえ秘術は隠したという。惜しげもなく教えるの

が決して賢明でないことをかつての師匠たちは知っていたのである(生田久美子・「わざ」から知る東大出版会)。ただ、これには時間が必要。四年間の学生生活や臨床実習期間では盗もうにも計画を練って終わりである。教科書や文献を貪るだけでは、レシピ本をみて、あたかも料理上手になったと勘違いしている輩と同じになってしまう。「身体全体で分かっている解り方」という学習者の認知プロセスが大切となる。そこで指導者(先輩)は指導される側の者(後輩・学生)に対し、コーチング(双方向コミュニケーション)をしようとする。臨むが、指導される側は指導者にティーチングを望み、知識や経験、体系化されたものだけを伝えてくれればよいとし、指導者の接近を鬱陶しく思ってしまう傾向にある。そして、指導者側もその方がいいと、楽な道を選択してしまっている。元来、馬車の意をもつコーチというのは大切な客を望むところへ送り届けるのが役目である。では、学生の「望むところ」とは何処であろうか?この「望む

ところ」が見えている学生は対峙しやすいが、見えていない学生には苦慮する。この「望むべき」姿は臨床指導者が見せるものであるのか?養成校側の教員か?働く親の姿なのか?はたまた学生自らが形成していくものであるのか?自分はどうであったのか?心が痛い。試練を「機会(チャンス)」と読むことのできる人は強い。純粹できれいな心をもってことに臨むことだ。作り上げてきた地位や名誉、肩書きを脱ぎ去ったときの「君は誰だ?」は重い。斯くいう私も迷走中である。高知リハビリテーション学院を卒業し三十年が過ぎた。いま私も管理職という立場にある。「こんな先輩を見習うな(畠山芳雄)」という書籍があった。過去には(厳密には現在も)私も先輩を見ていた。現在(いま)は先輩として見られている。そういわれないためにも愚直に努力せねばなるまい。そして、ルフィーは叫ぶ。「仲間がいるよー!」と。本学院の仲間であつてよかったと心から感謝している。

平成24年度

後期行事予定表

10月1日	後期授業開始
10月7・8日	学院祭
10月27日	就職合同説明会
11月28日～30日	全学科卒論発表
12月7日～13日	後期定期試験(3年次生)
12月21日	冬期休業入

1月7日	冬期休業終了
1月23日	学園記念日
2月12日～20日	後期定期試験(1・2年次生)
2月16日	国家試験(ST)
2月24日	国家試験(PT・OT)
3月10日	卒業式
3月21日	春期休業入